

2 - 1 重点事業評価

事業名

多様なニーズに対応できる情報サービスの提供

(1) 事業の概要

● 対象

子どもから高齢者・研究者まで、すべての年代の県民と本県に関心のある全国の人たち。

● 意図・目的

子どもから子育て世代、高齢者まで、幅広い年代向けの資料を収集するとともに、新潟県に関する郷土資料及び研究者のニーズに耐える専門書の充実を図ることにより、更なる利用の促進を図る。

● 具体的取組の概要

- ①各コーナー（くらしガーデン、家庭と子どもの本、第2のオフィス、ユースなど）の一層の充実を図るとともに、関連する講演会や講座、各種展示などを開催することにより、県民の生涯学習や課題解決を支援する。
- ②新潟県に関する郷土資料の収集保存と提供について、一層の充実を図る。網羅的収集により郷土資料の受入冊数を増やし、おすすめ郷土資料コーナーや新潟ガイドコーナーの充実によって、更なる利用の促進を図る。
- ③県民の多様かつ高度・専門化する調査研究活動を支援するための専門書・研究書の一層の充実を図る。パスファインダーを充実させ、ホームページで公開するなど調査相談機能の充実に努める。また、公開書庫のPRを行うなど、所蔵する専門書・研究書や郷土資料の活用を図ることにより、図書館の利用促進を図る。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
新規コーナー（こども図書室、ユースコーナー、くらしガーデン、家庭と子どもの本コーナー、CDコーナー、文芸コーナー、第2のオフィス）の合計貸出冊数	年間 280,000冊	年間 287,608冊

（前年度実績：272,443冊）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A（達成率103%）	児童書は微減したが、文芸は25%増加するなど、貸出増は継続し、目標が達成された。
------	------------	--

A A 目標が十分に達成された。 A 目標が達成された。
B 目標に今一步及ばなかった。 C 目標を達成できなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	利用者層の拡大と、県民の多様なニーズに応えるため、新規コーナーの資料の充実と、貸出の促進を図る指標設定は妥当と考える。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	新規コーナーの貸出冊数は前年度を上回る結果となり、利用の促進という成果は得られた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	利用者のニーズ等を踏まえ、社会的に関心の高い分野や、利用の多い分野の資料を積極的に収集し、提供した。「新着図書」や「おすすめ本」は表紙を見せて並べるなど書棚の工夫を行うとともに、古くなった資料の書庫入れをこまめに行うなど、書棚の刷新に努めた。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

県民のくらしや仕事に役立つ図書館となるよう、引き続き、利用者ニーズの高い資料を収集していく。資料選定に当たっては限られた予算の中で、利用価値の高い資料構成となるよう十分に考慮する。また、書棚の整理にも一層力を入れて、利用増加を目指していく。

(5) 図書館協議会意見

個人貸出冊数が増加している状況（過去最高値）は、図書館に対する利用者の満足度の高さを示すものとして捉えることができる。その要因としては、利用者のニーズをとらえた資料選定や、書架やコーナーでの資料展示が行われていること、また、利用者に対して職員が常に丁寧に対応していることなどが考えられる。職員によるこれらの日常的な取り組みや、利用促進のための努力を高く評価するとともに、今後の継続を期待している。

さらに、「県立」の図書館としては、郷土資料と専門書・研究書の一層の充実を図るべきであり、そのためにも十分な資料費の確保は必要不可欠である。

NHK新潟放送局の番組（金曜夜 きらっと新潟）への職員の出演は、図書館の調査相談機能の有用性を広く周知する上で、極めて効果的であると考ええる。利用者層の拡大や来館者の増加を図るためにも継続されることを望みたい。

入館者数については、掲げた目標を達成しようとする取り組みの必要性は認めるものの、一方で、館内の落ち着いた雰囲気を持続する必要もあると考ええる。過度な増加により、現在の来館者の満足度を損なうことがあってはならない。